

コウノトリの同居

飼育展示担当 千葉直子

コウノトリは、ペア形成が非常に難しいとされています。当園でも1年以上ネットの仕切越しに見合いを続けてきました。今年の秋には同居展示にするつもりでいましたが、同居のタイミングがわかりません。そこで、9月6日に健康診断をしてパニックになった2羽を同居させようと計画していました。

ところが、台風の通過した9月1日にタイサ（♂）がヒメ（♀）の展示場に侵入し…あっけなく、同居が成功していました。

人為的に、同居させるよりもこのままの状態を維持する方がいいと判断し、仕切ネットを全て撤去し観察してきました。

同居当初は、オスの採食が観察できなかったものの、その後の観察で2羽の採食も確認され、現在では2羽の距離は以前より近づき餌場に一緒にいる所も観察されています。

また、同居後一番の変化としてメスのクラッタリング行動が見られるようになりました。これが、警戒によるものなのか繁殖行動につながるものなのかは今はわかりませんが、このまま、順調に2羽がペアになってくれることを期待しています。



動物病院から

ジェーンに

獣医師 高橋広志



「飼育係として一番うれしいことは？」と質問されれば、たいていの飼育係は「担当動物に子供が生まれること」と答えます。動物園に来て5年目、ようやくその喜びを味わうことができました。今年の8月19日、担当しているチンパンジーのジェーンに子供が生まれたのです。しかもジェーンは37歳で、国内のチンパンジーでは最高齢出産記録というおまけ付きです。オリンピックの真っ

最中ということもあり、チンパンジー担当者みんなで金メダルを取ったかのように喜びあいました。

初めて見るチンパンジーの子供は、人間の赤ちゃんそっくりでとても愛らしく、普段はふてぶてしいジェーンの表情もどこか母親の優しさを湛えてみえます。いちばんの心配事は、13年ぶりに出産したジェーンに果たして子育てができるのかでしたが、子供が泣くとすぐに抱き上げて乳首を吸わせるなかなかの母親ぶりで安心して見ていられました。

ところが喜びも束の間、生まれてから12日目に子供が死亡しているのを発見しました。ジェーンの年齢はヒトでいうと60~70歳にあたります。上手に育てているように見えても、母乳が十分与えられず衰弱死させてしまったようです。

死んでしまっても、ジェーンは子供を大事に抱いて離そうとはしません。日に日に子供の死体は腐敗し、毛が抜けて、内臓は溶け出し、最後は骨と皮だけの干物のようになってしまいました。そんな形になっても、ジェーンは行く先々に大切な宝物のように持ち運び手放そうとはしません。「子が死んだことを理解できない」という覚めた見方もありますが、私は間近で見ている、「たとえ姿形は変わってしまっても我が子を誰にも渡したくない」という究極の母性を感じました。

子どもが死亡して約2週間後の朝、いつものようにジェーンの檻に近づくと、あんなに大事にしていた子供（といっても骨と皮だけの）を、静かに格子まで持ってきて私に手渡してくれました。私は自然に「ありがとうございます」と言っていました。